

令和5年度 長岡市社会教育の基本方針に基づく社会教育事業

資料1

1 市民の自主的な学習活動の支援

重点施策	事業名	担当課	事業内容	令和5年度の取組状況・実績及び年度末までの予定
①人材バンク「まちの先生」や、生涯学習ガイドブックを通じたまなびの情報提供	人材バンク「まちの先生」	文化振興課	知識や経験を教えたい、役立てたい方を講師として登録し(147人登録※R6.1.12現在)、市HPで紹介するもの。	<ul style="list-style-type: none"> 年間問い合わせ(紹介した)件数47件(R6.1.12現在) 3月にまちの先生へアンケートをとり、今年度の活用実績を把握する予定。 【参考:同アンケートによるR4年度活用実績:376件(回答者89人)】 <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍前(R元:登録者169人、年間活用数700件程度)に比べて、登録者数は微減だが活用数が大幅に減少している。PTAや町内会等にチラシを配布したり、HPを充実させるなどして、今後も積極的に広報して活用促進を図っていききたい。また、各課が実施している各種講座でも活用してもらえるように働きかけていきたい。
	生涯学習ガイドブック	文化振興課	市内で様々な分野において自主的に活動する、621団体・サークル(※R6.1.12現在)を市HPで紹介するもの。新しく何かに挑戦したい方や仲間づくりをしたい方等の問合せに答えている。	<ul style="list-style-type: none"> 年間問い合わせ(紹介した)件数43件(R6.1.12現在) 昨年度からHPをリニューアルした。見やすいレイアウトに変更したことに加え、検索機能の追加や写真の掲載など、利便性も向上させた。 登録団体への周知やHPの更なる活用に向けて、広報を行っていききたい。
②課題解決に向けた図書館資料及びサービスの充実と利便性の向上	レファレンス(調査相談)支援	中央図書館	図書館の本やデータベースを使って、調査研究に必要な本や文献を案内する。サービスについて図書館の広報誌やフェイスブックで紹介するほか、調べ方案内(パスファインダー)を提供。	11月までに62件のレファレンスを受け回答した。当館で回答が困難な調査については歴史文書館や県立図書館に協力を依頼した。
	取次所(利便性の向上)		図書館から遠い地域7か所に取次所を設置、予約図書を受取や返却図書の預かりを行う。	11月までに貸出4,956冊、返却7,109冊(8か所合計)の利用があった。図書の予約はパソコン、スマホ、電話で受付が可能、また取次所に予約紙を設置して受付を行っている。
③博物館の資料収集と情報発信	展示及び普及活動(常設展示)(出版物作成)特別・企画展示	科学博物館	<ul style="list-style-type: none"> 常設展示では豊富な資料で長岡市を時間と空間の視点から広く見渡し自然と歴史を紹介する。 博物館報(年報)、研究報告出版による情報発信を行う。 特別・企画展示では研究成果・収蔵資料・新資料を紹介する展示、時節にあった話題についての展示を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年4～12月の入館者数24,699人 常設展示:長岡のおいたち-自然史・歴史、長岡の姿-自然と暮らし、重要文化財・受贈資料展示。 博物館報No. 108、研究報告59号出版予定 特別・企画展示:「牧野富太郎博士が見た新潟の植物-博士につながる標本から-」「徹底解説!クワガタムシ」「未来へつなぐ長岡の史跡」を開催。 「なつかしの『雪の科学』」展示を開催中。「長岡藩主牧野家ゆかりのおひなさま展」を開催予定。(R6.1.11現在)

2 多彩なまなびの提供と人材育成

重点施策	事業名	担当課	事業内容	令和5年度の取組状況・実績及び年度末までの予定
①多様化する市民のまなびのニーズやステージに応じ、高等教育機関や企業などと協働した、既存の生涯学習や社会教育の枠にとらわれない各種講座の充実	まちなかキャンパス長岡事業	まちなかキャンパス長岡	<ul style="list-style-type: none"> 市内4大学1高専と連携し、まちなかカフェ、まちなか大学、まちなか大学院など、市民の学びのニーズやステージに応じ、ステップアップできる講座を企画・運営している。 講座を実施したいという市民等をサポートし、特色を生かした講座を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間80講座を企画、実施【予定】 まちなかカフェ:38講座、こどもカフェ:13講座、出張カフェ:1講座 まちなか大学:8講座、こども大学:2講座 まちなか大学院:1コース 市民プロデュース講座:7講座 ボランティア企画講座:10講座 年間受講者数 約3,000人【予定】
②学んだ成果を地域に還元できる人材の育成	地域学びコーディネーター講座	中央公民館	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティセンターなどで地域課題に対応した講座の企画・運営を担う人材育成の講座。 2年間で4分野(行政、実務、事例、教養)、全30講座(1年間15講座)を実施。「実務」では、受講者が課題解決に向けた講座を企画運営する実践的な「受講者企画講座」を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は2年間講座の初年度目。受講者26名。 今年度カリキュラムは、行政2、実務10(内受講者企画講座3)、事例1、教養2の計15講座を実施した。 今期はコロナ禍の影響も無く、視察等の体験・交流活動を積極的に取り入れることができた。また、実際に講座を企画し、実践することで、「企画力」「広報力」「チーム力」を培うことができた。 修了生は今後、自地域のコミセンから委嘱され、コミセン運営協議会等で地域課題に対応していく予定。
	まちなかキャンパス長岡事業	まちなかキャンパス長岡	<ul style="list-style-type: none"> まちなかキャンパス長岡のステップアップ体系の学びを通して、学んだことを地域や社会に還元する人材の育成を目指す。 主体的に考える「まちなか大学院」では、ディレクターの指導のもと、テーマについて各自が課題をみつけ、個別研究を行い、発表する。その学びの中で仲間をつくり、今後のそれぞれの活動につなげてもらう。 	<p>令和5年度のまちなか大学院は、5回の講義と4回の個別研究を経て、10回目に成果発表を行うプログラムとしている。現在、5人の受講者が各自のテーマとの関わりから個別のテーマを設け、最終回の成果発表に向け、ディレクターの指導のもと仲間と情報交換をしながら個別研究を行っている。</p> <p>コース:新事業開発コース 新事業開発スキルを磨く 期 間:令和5年11月6日～令和6年1月22日(全10回) ディレクター:グローバルマーケティング株式会社 代表取締役CEO 今井進太郎 産学連携推進室 室長 大澤容佳</p>

3 世代を超えた交流と、市民協働による地域力を生かしたコミュニティ活動の推進

重点施策	事業名	担当課	事業内容	令和5年度の実績及び年度末までの予定
①コミュニティ活動推進組織の活性化と体制づくりの支援	コミュニティセンター職員研修の実施	市民協働課	地域づくりのために、コミュニティセンター職員の意識啓発や研修会の開催及び案内を行う。	センター長・児童館長の自発的な研修会の開催支援(4部会各1回、全体研修会、第1～3部会合同研修)、新任職員対象の実務研修会を実施した。
②地域コミュニティ活動の推進	①コミュニティ活動推進事業補助金の交付 ②地域課題解決支援補助金の交付	市民協働課	①地域活動を推進するため、各地区コミュニティ推進組織に対して活動補助金を交付する。 ②地域の課題解決及びコミュニティ力の強化を図るため、コミュニティ推進組織に対して、活動補助金を交付する。	①41地区のコミュニティ推進組織に対し、活動補助金を交付し、財政的支援を行うことで、住民主体のコミュニティ活動を推進した。 ②コミュニティ推進組織に対し、課題解決のための活動補助金を交付し、財政的支援を行うことで、地域の課題解決を支援した。(7団体予定)
③地域における交流・活動拠点施設の整備	①コミュニティセンター整備 ②町内公民館建設等補助 ③Wi-Fi環境整備	市民協働課	①コミュニティセンターの改修・改築を計画的に進める。 ②町内公民館の建設・改修に係る費用の一部を補助する。 ③コミュニティセンター等の光回線化及びWi-Fi設備を整備する。	①中之島コミュニティセンター信条分室の建設工事、旧中条保育園の改修設計委託、既存施設の照明設備の改修(6施設)や講堂等へのエアコン設置(7施設)を行った。 ②町内公民館の建設・改修にかかる費用の一部を助成した。(実績:12件) ③コミュニティセンター等にWi-Fi環境を整備した(44施設)

4 家庭や地域の青少年育成機能の強化と、青少年が自ら主体的に行動できる力の育成

重点施策	事業名	担当課	事業内容	令和5年度の実績及び年度末までの予定
交流・体験学習活動や地域における青少年育成活動の推進及び人材育成の充実	放課後の居場所づくり	子ども・子育て課	地域の協力により、放課後の児童の安心・安全な居場所を提供するとともに、多様な交流・体験活動の場を提供する。	・児童館 39館開設 ・放課後児童クラブ 51クラブ開設 ・放課後子ども教室 22教室24小学校区で実施
	子ども会等リーダー養成・地域活動推進事業		・地域間・世代間交流を通して、小・中学生・高校生等のリーダーを養成する。また、地区子ども会行事へのリーダーを派遣し、地域活動を活発化する。	・サマーキャンプ 参加者合計:87名 ・みんな友だち(年2回) 参加者合計:123名 ・再会のつどい(年3回) 参加者合計:75名+予定50名 ・リーダー派遣事業 8回実施予定

5 文化・芸術を市民の身近なものにするための文化振興と、文化財保護の推進

重点施策	事業名	担当課	事業内容	令和5年度 of 取組状況・実績及び年度末までの予定
①市民の主体的・創造的な文化活動への支援	市美術展覧会	文化振興課	<ul style="list-style-type: none"> ・6部門(日本画、洋画、彫刻、工芸、書道、写真)の公募展 ・創作活動の発表の場を提供するとともに、生活の中に美術を味わう楽しさの普及に寄与する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本展 10月31日～11月5日 アオーレ長岡 ・巡回展 11月10日～12日 トチオーレ ・出品数:708点、入場者数:5,670人
	「市民音楽祭」開催支援		<ul style="list-style-type: none"> ・市民参加型の音楽祭を開催することにより、市民の音楽文化活動の普及振興を図る。 ・本市は補助金による財政的支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日及び会場 10月22日(日) 長岡リリックホール ・テーマ 「歌いつなぐ 合唱のまち長岡」 ・内容 箏講座・弦楽講座・フルート講座成果発表会、合唱団体によるリレーコンサート、グランドフィナーレ(市民公募合唱団による演奏) ・来場者数:583人
②文化財の保護・活用と民俗芸能の伝承	郷土民俗芸能公演会	科学博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土民俗芸能公演会を開催し、民俗芸能の魅力や文化を後世に伝えることの大切さを発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土民俗芸能公演会を開催 令和5年10月29日(日) 出演3団体、入場者数80人
	文化財保護事業		<ul style="list-style-type: none"> ・指定文化財の保存管理、修復等についての指導、助言等 ・文化財等の顕彰説明板、標柱の整備 ・指定等候補文化財の調査研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・指定文化財修復事業への補助 2件 ・説明板、標柱等の修理、整備 2件(R5.12.28現在) ・博物館等における資料展示
③埋蔵文化財発掘資料の整理と活用	遺跡発掘調査	科学博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・開発予定地における埋蔵文化財を保護するために実施した遺跡調査の出土遺物や記録類の整理、保存管理を行う。調査成果は博物館等の展示等に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開発に伴う遺跡調査等(R5.12.28現在) 試掘 3件、確認 3遺跡、発掘 0遺跡、工事立会 5遺跡 ・発掘調査報告書の刊行 ・博物館等における資料展示

重点施策	事業名	担当課	事業内容	令和5年度の取組状況・実績及び年度末までの予定
④様々な芸術文化に触れる機会の提供など魅力ある美術館活動の推進	栃尾美術館展覧会事業及び普及事業	中央図書館	<p>①展覧会事業:「中原淳一展 ～美しく装うことの大切さ～」(7/15～10/1)、「写実の軌跡Ⅱ 椿悦至展」(10/11～11/19)、「ながおかのこども作品展(12/2～1/28)」、「ふるさとのこどもたち展」(2/3～2/28)、館所蔵品展(4月・6月・3月)</p> <p>②普及事業:造形講座7～11月、夏休み☆まいにち工作8/1～8/6、とちびまつり9/30・10/1、つきいち☆アート6～12月 ほか 随時ワークショップ・講座を開催</p>	<p>①「中原淳一展 ～美しく装うことの大切さ～」では、戦前から戦後にかけてファッションデザイナー、編集者など多方面で活躍した中原淳一の作品を紹介。かつての人気雑誌『それいゆ』『ひまわり』などに掲載された挿絵など約100点を展示し、2,772人の集客があった。「写実の軌跡Ⅱ 椿悦至展」では、没後20年を記念し、写実にこだわり続けた70余年の画業を振り返り、故郷の景色など約80点の作品を展示。567人の集客があった。12月から年度末まで、市内小中学生・園児の作品を中心に展示する「ながおかのこども作品展」、「ふるさとのこどもたち展」、館所蔵品展を開催。</p> <p>②「夏休み☆まいにち工作」(参加者153人)や、「とちびまつり」(参加者536人)などを開催。また、「つきいち☆アート」では、年間を通して、子どもから大人まで、気軽に美術に親しんでもらう機会を提供した(参加者79人)。人気の高い干支の張り子の絵付けや陶芸講座なども継続、ほとんどの講座が定員に達し、参加者からも概ね好評だった。</p>
⑤歴史資料の保存と活用・普及活動の推進	古文書解説講座	中央図書館	歴史文書館の所蔵資料等をテキストにして、郷土長岡の江戸時代のすがたを古文書に書かれた文字を解説することで読み解く「古文書のいろは」(初心者向け)、「古文書に見る長岡のすがた」(経験者向け)を開設する。	「古文書のいろは」は全3回実施、延べ参加者数120人 「古文書に見る長岡のすがた」は全4回実施、延べ参加者数198人
	長岡市史双書を読む会	中央図書館	長岡市史双書No.40『三島億二郎日記(4)北海道拓殖の記』をテキストにして、三島億二郎の人物像などを紹介する。	全2回実施、延べ参加者数85人
⑥馬高・三十稻場遺跡、八幡林官衙遺跡、荒屋遺跡の整備と活用	国指定史跡の整備と活用	科学博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・史跡の保存管理 ・史跡公園等の整備を行い、市民が文化財や地域の歴史を学ぶ機会を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・史跡の保存管理 ・博物館等の展示、パネル等の整備 ・出土品の再整理(資料図化)

6 市民が自らスポーツを楽しみ、健康で生きがいを感じるまちづくりの推進

重点施策	事業名	担当課	事業内容	令和5年度の取組状況・実績及び年度末までの予定
①学校体育と地域スポーツ活動の連携	こどもスポーツチャレンジ(旧 夢づくりスポーツ)	スポーツ振興課	市内小・中学生を対象に「熱中！感動！夢づくり教育」の一環として、長岡市スポーツ協会及び競技団体と連携し、競技力の向上やスポーツへの興味・関心をさらに高めるプログラムを提供	こどもたちがスポーツに親しむ機会の充実を図るため、種目別競技団体の協力を得て、初心者を対象とした体験会や入門教室、全体練習会、簡易的なゲームなどを実施し、部活動やクラブ等への橋渡しを行った。今年度、26種目延べ約2,000名の申込があり、3月上旬まで実施予定。
②興味・関心に応じたスポーツ参加機会の充実	・スポーツ・レクリエーション教室の開催 ・パラスポーツ活動の推進	スポーツ振興課	・市スポーツ協会や体育施設指定管理者が公共施設等を活用し、健康体力づくりや仲間づくりを目的とするスポーツ・レクリエーション教室、エアロビ等のフィットネス教室を開催 ・パラスポーツ(車いすバスケ・ブラインドサッカー)の体験事業	<ul style="list-style-type: none"> ・市民体育館、北部体育館、南部体育館、アオーレ長岡、山通・大島コミセン等で各種スポーツ教室を開催 <ul style="list-style-type: none"> ○マスターズ教室(6会場 8コース 会員数196人) ○レディース教室(4会場 4コース 会員数100人) ○エアロビ教室(2会場 2コース 会員数57人) ○一般(成人)教室(4会場4コース 会員数81人) ○レクスポーツ教室(1会場 1コース 会員数24人) ○フットサル教室(1会場 1コース 会員数25人) ○女子バスケ教室(1会場 1コース 会員数18人)(R5.12.31現在) ・市内小中学校でパラスポーツの体験授業を実施 <ul style="list-style-type: none"> ○ブラインドサッカー(5校 約100人) ○車いすバスケ(9校 約350人)
③ジュニア選手の育成・強化と継続したトップ選手の育成・強化の推進	指定種目強化事業	スポーツ振興課	小学生から高校生間までのジュニア層の発掘、育成、強化システムを構築し、選手の競技力向上を図るため、練習会、合宿・合同練習会、研修会を開催(スポーツ振興課委託業務)	強化事業に推進体制が整備されている競技団体(種目)を指定し、将来のトップアスリートの育成・強化と協議団体の選手育成システムの充実を図れている。 【指定種目】 水泳(競泳)、水泳(飛込)、テニス、陸上、サッカー、体操、野球計7種目
④コミュニティスポーツ推進組織の活動支援	コミュニティスポーツ活動推進事業	スポーツ振興課	地域住民が自主的・主体的に運営するコミュニティスポーツ推進組織の活動に対して補助金を開催(スポーツ振興課委託業務)	本補助金の交付により、地域住民の自主的なコミュニティスポーツ活動の活性化が図れている。 申請団体数:17申請 交付決定額 912千円(R5.12.31現在)

重点施策	事業名	担当課	事業内容	令和5年度の取組状況・実績及び年度末までの予定
⑤大規模大会の開催やプロスポーツの観戦機会の拡大、スポーツを通じた国際交流	・全国大会等大規模大会開催補助事業 ・オーストラリア等飛込チームとの市民交流	スポーツ振興課	・全国大会、北信越大会の開催を支援 ・オーストラリア等飛込チームと小学生の市民交流事業を実施	・全国大会支援 申請2件 交付決定額 2,000千円 ・北信越大会支援 申請5件 交付決定額 600千円 ・オーストラリア及びオランダの飛込チームと小学生の交流(阪之上小学校 42名)

7 人権・同和問題の市民意識啓発

重点施策	事業名	担当課	事業内容	令和5年度の取組状況・実績及び年度末までの予定
①人権の尊重や同和問題など啓発活動の推進(社会同和教育研修会など学習機会の提供等)	人権教育、同和教育研修会	中央公民館	差別や偏見のない明るい社会づくりを目的に、人権・同和問題を正しく理解し、市民への啓発を進めるため、研修会を実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・実施日:7月15日(土)10:00~12:00 ・参加者:63人 ・内容:DVD上映「インターネットと人権 ～加害者にも被害者にもならないために～」、講演「人権教育、同和教育について～新潟県の人権教育は同和教育から始まった～」(講師:長岡市立日越小学校教諭 西澤 貴志さん)
	人権啓発の推進	人権・男女共同参画課	人権を尊重し大切にすることをもち、人権問題を自分自身の問題としてとらえられるよう、啓発活動を実施	<ul style="list-style-type: none"> ○人権講演会 ・実施日:2月18日 ・講師:石川結貴さん(ジャーナリスト) ・演題「子どもたちの見えざる貧困～ネット社会で潜在化、深刻化する現状について～」 ○性的マイノリティ理解促進講演会 ・実施日:8月6日 ・講師:遠藤まめたさん(一般社団法人にじーず 代表) ・参加者:37人 ・演題「知っていますかLGBT/性の多様性」 ○研修会や講演会で啓発資料を配付

・・・基本方針・・・
**市民の意欲を引き出す多彩なまなびの場づくり、
 まなびを地域に活かす人づくりの推進**

< 重点施策 >

1 市民の自主的な学習活動の支援

- ①人材バンク「まちの先生」や、生涯学習ガイドブックを通じたまなびの情報提供 →文化振興課生涯学習担当
- ②課題解決に向けた図書館資料及びサービスの充実と利便性の向上 →中央図書館
- ③博物館の資料収集と情報発信 →科学博物館

2 多彩なまなびの提供と人材育成

- ①多様化する市民のまなびのニーズやステージに応じ、高等教育機関や企業などと協働した、既存の生涯学習や社会教育の枠にとらわれない各種講座の充実 →まちなかキャンパス長岡
- ②学んだ成果を地域に還元できる人材の育成 →まちなかキャンパス長岡、中央公民館

3 世代を超えた交流と、市民協働による地域力を生かしたコミュニティ活動の推進

- ①コミュニティ活動推進組織の活性化の支援
 - ②地域コミュニティ活動の推進
 - ③地域における交流・活動拠点施設の整備
- } 市民協働課コミュニティ推進係

4 家庭や地域の青少年育成機能の強化と、青少年が自ら主体的に行動できる力の育成

交流・体験学習活動や地域における青少年育成活動の推進及び人材育成の充実 →子ども・子育て課

5 文化・芸術を市民の身近なものにするための文化振興と、文化財保護の推進

- ①市民の主体的・創造的な文化活動への支援 →文化振興課
 - ②文化財の保護・活用と民俗芸能の伝承
 - ③埋蔵文化財発掘資料の整理と活用
 - ④様々な芸術文化に触れる機会の提供など魅力ある美術館活動の推進
 - ⑤歴史資料の保存と活用・普及活動の推進
 - ⑥馬高・三十稲場遺跡、八幡林官衙遺跡、荒屋遺跡の整備と活用 →科学博物館
- } 科学博物館
- } 中央図書館

6 市民が自らスポーツを楽しみ、健康で生きがいを感じるまちづくりの推進

- ①学校体育と地域スポーツ活動の連携
 - ②興味・関心に応じたスポーツ参加機会の充実
 - ③ジュニア選手の育成・強化と継続したトップ選手の育成・強化の推進
 - ④コミュニティスポーツ推進組織の活動支援
 - ⑤大規模大会の開催やプロスポーツの観戦機会の拡大、スポーツを通じた国際交流
- } スポーツ振興課

7 人権・同和問題の市民意識啓発

人権の尊重や同和問題など啓発活動の推進（社会同和教育研修会など学習機会の提供等）

→人権・男女共同参画課、中央公民館

令和6年度長岡市社会教育関係団体補助金(案)

資料3

※変更箇所は二重下線

(単位:千円)

No.	団体の名称	事務局所在地	代表者氏名	R6年度補助金 (予定額)	R5年度補助金 (交付額)	前年比 増減額	担当課
1	長岡市出雲崎町小中学校 PTA連合会	子ども・子育て課内	<u>市村 亮介</u>	300	300	0	子ども・子育て課
2	長岡市子ども会連絡協議会	<u>役員所有建物</u>	高野 正義	2,200	<u>2,200</u>	0	
3	越路文化協会	越路支所	桑原 久男	<u>280</u>	<u>300</u>	<u>-20</u>	文化振興課
4	小国文化協会	小国民俗資料館	安澤 總夫	<u>364</u>	380	<u>-16</u>	
5	よいた文化協会	与板支所	<u>太平 美恵子</u>	<u>350</u>	<u>400</u>	<u>-50</u>	
6	寺泊芸術文化協会	寺泊支所	高津 勝	170	170	0	
7	枳尾文化協会	会長宅	大竹 啓一	385	385	0	
合 計				<u>4,049</u>	<u>4,135</u>	<u>-86</u>	

裏面に団体説明記載

長岡市社会教育関係団体

No.	団体の名称	目的	事業概要	活動地域
1	長岡市出雲崎町 小中学校PTA連合会	PTA事業を推進し、単位PTA同士の連携を深め単位PTAの活動の充実発展を図るとともに、児童生徒の健全育成に寄与することを目的とする。	学校や家庭における子育ての課題(いじめ・スマホ問題等)解決に向けた取り組みや、会員の親睦を深めるスポーツ大会、広報活動など	長岡市全域 出雲崎町
2	長岡市子ども会 連絡協議会	青少年の健全育成を目指し、子ども会相互の連携と親睦を図り、子ども会活動の活性化を促進する。	研修事業(みんな友だちなど)、交歓・交流事業(子どもフェスティバル)、子ども会育成役員研修、リーダー派遣事業など	長岡市全域
3	越路文化協会	越路地域内に組織する文化団体の連絡提携並びに指導育成を図り、もって越路地域市民の文化の向上に寄与することを目的とする。	各文化団体主催のもと、展示発表会などを開催している。また11月には越路公民館との共催により越路文化展を盛大に開催している。	越路地域
4	小国文化協会	小国地域における総合文化団体として、各種文化団体及び個人の提携協力と、芸術文化の健全な発展をはかり、もって地域文化の振興に寄与する。	(1)団体及び会員相互の連絡協調を図る。 (2)発表の機会を設け、発表会展示会等を開催又は協賛する。 (3)その他、本会の目的達成に必要な事項を行う。	小国地域
5	よいた文化協会	与板地域における各種文化団体の連絡と調整を図るとともに、芸術文化の振興を図ることを目的とする。	(1)与板地域文化祭の開催に関すること (2)与板地域における文化の発展、振興に関すること (3)与板の文化団体の活動支援と相互の連携に関すること (4)その他協会の目的達成に必要な事業	与板地域
6	寺泊芸術文化協会	寺泊地域における各種芸術文化団体の連絡調整を図るとともに、芸術文化の振興に努めることを目的とする。	文化芸術の創作活動の成果を発表する文化祭や芸能祭などを開催することにより、芸術文化活動への参加意欲を喚起し、新しい文化の創造を促すと共に、寺泊地域の文化の醸成に寄与している。	寺泊地域
7	栃尾文化協会	文化芸術の振興と市民の情操教育の高揚を図り、豊かな市民文化の向上に資する。あわせて文化団体が団結して積極的に協力し、長岡市の生涯教育文化活動の発展に寄与することを目的とする。	・栃尾交流拠点施設「トチオーレ」オープン1周年記念イベント 芸術祭開催(5月) ・市民芸能祭開催(6月) ・とちお祭芸能祭開催(8月) ・新春祝賀会(1月) ・機関紙「文協情報」の発行(年1回) ・白鷹町芸文協との交流事業 ・とちお文化祭参加	栃尾地域

令和6年2月21日

令和4～5年度 長岡市社会教育委員会・公民館運営審議会 自主研修のまとめ

1 研修テーマ

地域資源を活用した「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の在り方

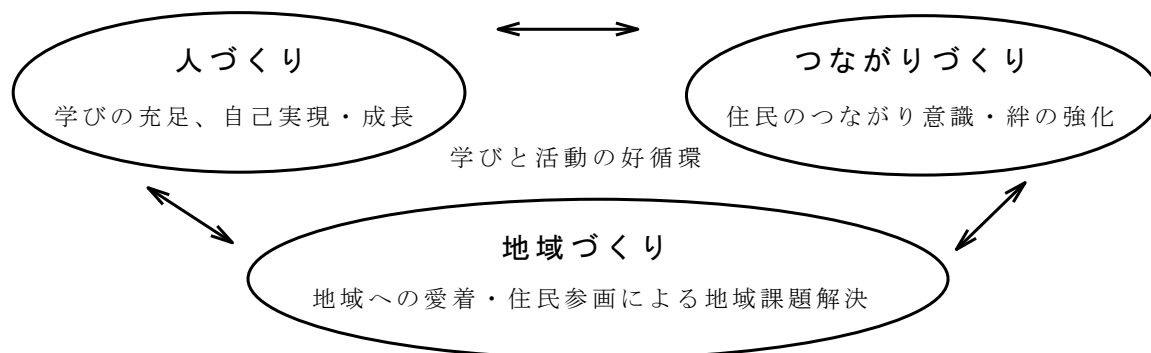
2 テーマの趣旨

少子化や高齢人口の増加、人口減少、かかわり意識の低下などにより、地域衰退の現象が大きな課題となっている。

中教審答申（平成30年12月）によれば、これからの社会教育は「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の3つが大切なキーワードであるとしている。

これらの3つ要素は、それぞれ単独に目指すものではなく、たがいにかかわり合いながら成し遂げられていくと考えられる。例えば、「地域づくり」を目指す過程では、新たなアイデアを実現しようとする「人づくり」や目的に向かって協働しようとする人々の「つながりづくり」も必然的に派生するものである。

人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策（H30.12）



私たちの地域には独自の歴史や文化など多くの地域資源に恵まれている。その資源をどう活かして「人づくり」や「つながりづくり」そして「地域づくり」と発展させることができるか社会教育の面から検証をすることが大切と考える。

3 自主研修に関わって

(1) 地域資源のとらえ

地域が固有に有していると考えられる自然、歴史、人材、産業、行事、伝統文化、産物などの資源

(2) 地域資源を掘り起こし、活用することで、各地域ではどのように人づくり・つながりづくり・地域づくりに発展したのかを視察し検証する。（4・5年度）

- (3) 視察地域の成果を確認しながら他の地域ではどのようなことが考えられるのか推察する。(5年度)
- (4) 社会教育委員としてどのようなかかわりができるのか、どのような活動が考えられるのか考察する。(5年度)

4 自主研修の実際

地域資源に富んでいると推察される支所地域を訪問し、地域資源の活かし方や、人づくり・つながりづくり・地域づくりの実践を学ぶため、令和4・5年度に下記のように視察訪問と研修を行った。

<令和4年度>

(1) 視察訪問先と研修内容 (実施日：R4.9.28)

① 和島地域 (会場：和島支所)

- ・講話 「良寛さんと地域づくり」 講師：羽鳥様
- ・視察 「はちすば通り」等の活用実態を視察

② 三島地域 (会場：三島支所)

- ・講話 「みしま西山連峰登山マラソン大会」 講師：片桐様
- ・講話 「越後みしま竹あかり街道」 講師：遠藤様

※別紙「令和4年度長岡市社会教育委員会視察内容のまとめ」参照

(2) 視察研修レポートの作成と提出 (各委員)

(3) 委員によるグループワークと発表の実施 (実施日：R4.11.25)

① ねらい

- ・地域資源の活用について、人づくり・つながりづくり・地域づくりについて視察内容をもとにその「よさ」や「課題」について話し合う。
- ・グループワークと発表を行い、地域資源の活用等について整理分類して理解を深めていく。

② グループワークと発表

視察訪問した和島地域と三島地域のそれぞれについて、3班編制のグループワークで意見交換を行った。

その後、各班の発表を行い、研修テーマに関わる重要点などについて共有し理解を深めた。



<和島地域について各グループの主な発表内容>

- 「良寛さん」のよさを再認識する場を「人・もの・こと」を活用して設

けていることがすばらしい。今後は、様々な大人が関わっていき、次世代につなげていくことが大切である。

- 指導者の減少・高齢化、モチベーションや資金の継続が課題。地域全体で取り組むことが後継者の育成やモチベーションの持続に寄与している。
- 小中学生などの若い世代に対して、学びの提供だけでなく「こどもガイド」などの実践を伴う後継者育成は有効である。地域愛を育んでいくことも重要である。

<三島地域について各グループの主な発表内容>

- 活動継続のためには強いリーダーシップをもつ人材が必要。地域資源や活動自体の価値を周囲に再認識してくれるような人材、活力を生み出していけるようなリーダー性のある人材が不可欠。
- イベントそのものの魅力がすばらしい。学生も主体的に参加している。課題は指導者。一部の人だけで取り組んでいる。指導者も楽しめるような意識、体制づくりが重要。
- 自然をうまく活用していた。先を見据えた取組を行政と一緒に考えていくことが重要。

(4) 令和4年度研修のまとめ

- ① 地域資源の活用のためには、和島地域の実践のように地域住民に地域の貴重な資源を再認識・再確認させる取組が必要である。
そして、地域資源活用を持続可能にしていくためには、若い世代のかかわりや後継者の育成などを通して、地域愛をさらに育むことが重要である。
- ② 地域に根ざした魅力ある取組やイベントを現状の実行組織だけで継続していくことには困難な面がある。新たな仕組みづくり、様々な人材活用、組織間の連携や行政との連携などについて、創意工夫が必要となる。

<令和5年度>

(1) 視察訪問先と研修内容 (実施日：R5.9.28)

- ① 栃尾地域 (会場：トチオーレ)
 - ・ 講話 とちおコミュニティ協議会の取組
講師：武士侯様 (とちおコミセン・センター長)
 - ・ 視察 栃尾地域交流拠点施設トチオーレの活用実態を視察
- ② 山本地域 (会場；山本コミセン)
 - ・ 講話 山本地区活性化プロジェクトの取組
講師：下条様 (山本コミュニティ推進協議会)

※別紙「令和5年度長岡市社会教育委員会視察内容のまとめ」参照

(2) 視察研修レポートの作成と提出 (各委員)

(3) 委員によるグループワークと発表の実施 (実施日：R5.11.29)

- ① ねらい

令和4年度と5年度の視察研修を踏まえて、次の2点についてグループワークを実施し、2年間の自主研修のまとめを行った。

ア 地域資源を活用するために大切なことは何か。

イ 地域資源を活用するために行政・コミセン等はどうのような関わりや支援が必要か。

② グループワークと発表

昨年度と今年度の視察訪問をもとにグループワークを行い、その後、各班の発表を行い、研修テーマに関わることについて共有し理解を深めた。

<地域資源を活用するために大切なことは何か>についての主な発表内容

- 地域の歴史や文化を地域の宝として住民に啓発していくこと。そして、この宝（地域資源）を生かすには、住民を巻き込み、当事者意識をもってもらうことが大切である。
- 守り持続していくべき資源を住民と共に整理すること。
- 地域資源を活用していくために、人が集うこと。そして、リーダーなどの核となる人材が必要である。
- 人が集いアイデアを出し合い、持続性や発展性のある取組をできることから行っていく。そのためにも SNS 等を活用した募集や広報は有効である。
- 地域資源に関する郷土愛等を育むためには小中学校との連携が必要。

<地域資源を活用するために行政・コミセン等はどうのような関わりや支援が必要か>についての主な発表内容

- コミセンは住民の声やニーズをまとめていく。そして、団体と団体をつないだり、人材をつないだりして、地域資源活用に寄与する役目がある。
- コミセンは団体や人材をつなぐネットワークを充実させる必要がある。
- コミセンは地域資源活用の核となるリーダーを見い出すために情報を集め、市の研修などに参加する道筋を提案していく。
- 行政は地域資源活用事業を複数年実施できるように、予算付けをしてもらいたい。
- 行政の資金面でのバックアップが欠かせない。イベント開催の支援もよい。加えて、ワークショップや研修会を充実することも大切である。
- 行政は高校・大学とコミセンの活動をつなぎ、多世代による活動を支援することが必要。
- コミセンや行政は SNS 等の活用を行い、多世代に届く情報発信への工夫



が必要である。

- 住民はコミセンと行政の違いがよくわからないために、対応できない問い合わせなどがある。コミセンができることとできないことがある。

(4) 令和5年度研修のまとめ

① トチオーレ視察では、「魅力ある拠点施設」を核とした地域資源活用の取組に全委員が感銘を受けたようである。センター長の団体と団体をつなぎ、人と人をつなぐ、高い識見に基づいた地域資源を生かした仕掛けづくりがあった。このことから、住民が地域資源を認知し、関わろうとする意欲の育成が重要であることを委員は確認できた。

② 山本地区活性化プロジェクトでは、委員に下記のような新たな認識を与えてくれた。

- ・ SNS を活用した募集や発信により、多世代を巻き込むこと。
- ・ 自分たちのできる範囲の活動目標を設定し、取組を絞ること。
- ・ ながおか市民協働センターなど地域づくりにアドバイスをもらう体制を整えたこと。

なお、プロジェクトが市活動補助金や予算の関係により単年度イベントで終わる内容があったことが、多くの委員に残念と感じられたようである。

しかし、プロジェクトの立ち上げから取組実現までに内容は、他地域の参考にもなる素晴らしいものであるとの感想が多くあった。

③ 令和4年度を踏まえた5年度の研修では、市内各地に地域資源活用に取り組む素晴らしい人材や団体がいること、そして、多様な取組方法があることを委員は認知することができた。

5 令和4～5年度の自主研修のまとめ

(1) 地域資源の活用の形態について

① 公民館講座をもとに地域資源の大切さを認知させ、発展させる。

○ 和島地域での実践例

良寛さんの学びを各世代に広め、地域づくりにかかわる。

<重要点> 核となる人材のリーダーシップと先見性

<課題点> 活動メンバーの高齢化と資金面での持続可能性

② 熱意ある地域団体によるイベントの継続

○ 三島地域での実践例

自然を生かしたマラソン大会 自然を生かした竹あかりイベント

<重要点> 熱意あるメンバーと協力者が存在し続けること

<課題点> 他団体や人材との協力体制を維持し続けることが不可欠

③ 魅力ある拠点施設を活用した地域資源の理解と活用を図る。

○ 栃尾地域・トチオーレの実践例

トチオーレを活用した地域資源の認知と交流啓発

<重要点> 団体や人材をつなぐ、組織体制づくりとリーダーシップ

<課題点> 拠点から遠い人の利用促進や地区コミュニティとの連携

④ 地域の宝を生かすプロジェクトの発足と実践

○山本地域の実践例

組織を立ち上げ、専門家のアドバイスをもとにできることを実行

<重要点> SNSを活用し多世代が関わる楽しさや達成感ある活動

<課題点> 活動資金の都合により単年度イベント等になりやすい

(2) 地域資源の活用の必要なこと

- ① 地域住民に地域の宝である歴史や文化など地域資源に対する関心を高める啓発の場を用意すること。
- ② 地域資源活用を進めるために核となる人材を発掘し、多世代の住民が関わる体制をつくることは特に重要である。
- ③ 団体や人材をつなぎ、人が集いアイデアを出し合い方向性を探ること。
- ④ 地域づくりの専門家からのアドバイスを活用すること。
- ⑤ 人づくりを進めるためワークショップや研修会に参加する機会を得ること。
- ⑥ SNSなどを活用し、情報収集と多世代への情報発信に努めること。
- ⑦ 次世代を意識し、学校との連携を行い、郷土愛を高めること。

(3) 社会教育委員として地域資源活用のためにどのようなかわりができるか

自主研修の実施により委員が各地域を訪れることで地域の特色を知り、地域資源を活用しようとする地域愛や行動力を目の当たりにした。そして、委員は社会教育に関する視野を広げることができたと思われる。さらに、この研修をもとに委員は各地域や活動等で次のような取組を行うことができると考えられる。

- ① 視察地域の実践例を紹介し、地元等と視察地域をつなぐことができる。
- ② 地域会議等において、視察地域の実践を踏まえて意見を述べる。
- ③ 市民協働センターが地域づくりのアドバイスを行うことを紹介できる。

※中央公民館ではコミセンで活躍できる人材育成のため「地域学びコーディネーター講座」(2年間講座)を行っている。

- ④ 委員の在住地域等における地域資源活用状況を把握し、必要に応じて情報提供を行うことができる。
- ⑤ 社会教育活動の広報や募集において SNS を活用した山本地区の事例を紹介することができる。(詳細は山本地区に問い合わせることも可能)

※社会教育委員が地域会議等に参加し、発言する機会がないほとんどない状況にある。社会教育委員の認知度を上げ、委員が地域の各種会議に招聘され、意見を述べたり、相談されたりできる体制づくりが重要である。

令和4年度 長岡市社会教育委員会 視察内容のまとめ

視察日 令和4年9月28日

※人づくり・つながりづく・地域づくりにあげた項目はそれぞれにつながりがあり明確に3項目に分類できない内容もある。下表は研修委員長による分類の一例である。

	和島地域	三島地域	
地域資源	良寛と史跡	竹あかり街道	登山マラソン
	良寛に関わることを地域の誇りとして住民が胸を張り、活動できる地域づくり	杉林を浸食した竹を伐採することで、里山の荒廃を防止する里山保全の啓発活動	急坂のコースを上がると長岡市内と日本海が眺望できる自然を利用した大会
地域資源活用の取組の中心組織	和島公民館（当時の公民館長：羽鳥さん） 街づくり協議会	三島ライトアップ実行委員会（事務局個人宅） ながおか生活情報交流ねっと	登山マラソン実行委員会 （事務局 三島支所市民生活課）
人づくり 自主・自発的な学び 自己実現・成長	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館での地域歴史講座開設 ※住民が地域の歴史・誇りを再発見再認識 ・小・中学生の学びと活動 ※良寛にまつわる遠足や住雲園清掃 ・ボランティアガイドの育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生の行灯づくり ・中学生の竹灯籠づくり ・ボランティアの参加（約500人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国からの参加者 （昭和60年から38回実施） ・中学生のコース整備活動参加 ・中学生の大会参加 ・地区内ボランティア
つながりづくり 住民の相互学習 つながり意識 住民の絆	<ul style="list-style-type: none"> ・墓前供養のための清掃活動 ・良寛会への参加 ・ボランティアガイドの会立ち上げと運営 ・小中学生の地域活動への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡造形大学の協力 ・学生が中学生に教え、中学生が小学生に教える ・ボランティアの参加（約500人） ・諸団体や企業など幅広いネットワークをもつ ・多世代の参加者がいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・有森選手のチャリティマラソン ・全校中学生が参加する体制づくり(学校) ・企業からの協賛
地域づくり 地域への愛着 将来を考え取り組む 住民の参画 地域課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> ・街づくり協議会の活動 ・はちすば通りの整備（蓮の植栽など） ・墓前法要 ・良寛手まり座 ・小中学生の地域活動などへの参加体制 ※地域への愛着を深める学校との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会メンバー17名の実行力 ・伐採した竹を竹灯籠に（里山保全） ・木材粉碎機で竹を粉碎し山に戻す ・協賛する企業等も関わる地域づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・4中学生の準備（コース整備）や大会参加による地域のへの愛着や多世代とのかかわり ・地域おこしの大義ではなかったが有名になった
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館→コミセンへの移行 ・関わる人・後継者の育成 ・活動資金の確保 ・発信・広報 	<ul style="list-style-type: none"> ・50～60代の実行委員の高齢化 ・実行委員会と他の団体・行政との連携 ・次の世代にどうつなげるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営の苦勞・負担が大きい ・行政だのみの面がある ・コミセンなど他組織との連携

令和5年度 長岡市社会教育委員会 視察内容のまとめ

視察日 令和5年9月28日

※人づくり・つながりづく・地域づくりにあげた項目はそれぞれにつながりがあり明確に3項目に分類できない内容もある。下表は研修委員長による分類の一例である。

	栃尾地域（トチオーレ・とちおコミセン）	山本地域
地域資源	トチオーレ（栃尾地域交流拠点施設）・地域文化の交流 ・新設された拠点施設を「地域住民のリビング」と位置づけている。 ・栃尾各地域の歴史・文化を交流する「かりやだ交流会」等の実施。	山本地域の歴史と文化（山本地区活性化プロジェクト） ・活性化プロジェクトを組織し、歴史マップ、探訪コースナビの作成公開や空き地活用や自然を生かしたキャンプイベントなどを実施。
地域資源活用の取組の中心組織	とちおコミュニティ協議会（とちおコミュニティセンター） 2つの委員会・3つの部会・5つの地区コミュニティ	山本地区活性化プロジェクト組織・山本コミュニティセンター プロジェクトメンバーを募集し、各種イベントを実施
人づくり 自主・自発的な学び 自己実現・成長	住民の多様なニーズに応える拠点施設（トチオーレ） ・図書館、キッチン、音楽スタジオ、大小ホール、フリースペース等 ・小中学校との連携と利活用を推進し、郷土愛を育む取り組み ・eスポーツや音楽スタジオなど多世代の利用促進 ・各種教室や講座の実施	・プロジェクトメンバーをSNSを利用して募集し、参加者を広げた。 ・市民協働センター等の外部専門家とともにプロジェクト会議を行いメンバーの意欲や行動力を高め、計画実行の達成感を得させている。 ・SNSの活用により、若い世代が参加している。 ・プロジェクトメンバーの運営の力が高まり、達成感が大きかった。
つながりづくり 住民の相互学習 つながり意識 住民の絆	・地域内各所の伝統文化や各種団体の取組を発表する「かりやだ交流会」を開催し、地域の大切なものを再発見し、認知する場を継続 ・コミセンにおける各地域の団体や人材をつなぐパイプ役・支援役に徹して、各種の連携事業（商店街との連携・観光PR等）を実施。 ※多世代で多様な団体等がつながる出会いの場 ・センター長の高い識見等による様々な仕掛けによるつながりの場。	・プロジェクト会議にて「身の丈に合わせた方向付けと実施、真摯な姿勢、できる範囲で行う」を共有し、参加者の協力体制を築いた。 ハイキング、空き地にサツマイモ栽培、「みやじさま」のイベント等 ・若い家族世代が「イベントに参加して楽しい」と思えたことをつながりの端緒としている。 ・企業や寺社など様々なつながりを通してプロジェクトを実行した。
地域づくり 地域への愛着 将来を考え取り組む 住民の参画 地域課題の解決	・トチオーレを拠点施設として、人と団体などが交流し合える場を継続的に設定して地域全体を知り、地域への愛着を深める活動を実施 ・商店街との連携、ボランティア活動など社会福祉協議会との連携がスムーズに行われ、地域活性化や地域課題解決の取組を実施している。 ・各種イベント開催による人が集える場として機能している。ここから住民の参画を広げようとしている。	・プロジェクトの一つに住宅団地造成計画があり、宅地が完売した。 地域づくりの事業としては大胆な取組である。 ・地域の宝（地域資源）をイベント等を通して住民に再確認・再発見してもらうことができた。これにより地域への愛着が深まった。 ・プロジェクトでは企業や寺社との連携などが行われ、地域課題の解決に向けて、協力体制を構築できた。
今後の課題	・トチオーレから離れた住民の利活用促進 ・5つの地区コミュニティの活性化とトチオーレとの連携 ・子どもや若い世代に郷土愛を育み、人材育成を図ること。	・単年度の補助金を活用した事業であったので単年度行事となった。 継続的に実施できるプロジェクトになるとさらなる進展が見込める。 ・小中学生の郷土愛を育むことは大切である。学校との連携や保護者の参加や関心を高めることが必要である。

資料1に関する意見・質問

No	内容	意見・質問者	回答	回答課
【全体】	各事業の実績だけでなく、その事業を実施したことで、何がどうなったのか。また、どのような声や変化があったのか等も記載していただくことで、委員側が市の社会教育事業を評価しやすいと感じる。次年度以降そのような表記をお願いしたい。	委員	ご意見いただいたように、事業ごとの効果や市民の声等も資料に反映するよう、次年度以降検討してまいります。	事務局 (中央公民館)
【全体】	中央図書館の取次所の設置やまちキャンの出張カフェなどのようなアウトリーチ型の取組が各部署で展開できないだろうか。	委員	いただいたご意見を各部署に共有し、それぞれの事業において市民が活用しやすいよう検討してまいります。	事務局 (中央公民館)
【全体】	私自身、事業内容や取組状況について知らないことが多々あった。一層の広報活動の充実や工夫、周知が必要かなと思った。	委員	いただいたご意見を各部署に共有し、それぞれの事業において広報活動の方法等について検討してまいります。	事務局 (中央公民館)
1-① 2-②	両事業とも、人材育成に向けた取組。広報の工夫、充実は大切。せっかく熱意をもって受講しても活用されなければ埋もれてしまう。要請を待つだけでなく、2-②のようにコミセン等で活躍の場が明確にされることは良い。まちキャンの講座や一般のサークル等にピンポイントで働きかける等、一層の活用促進を工夫していただきたい。	委員	ご提案いただいたように、行政・地域・学校等、様々な場で活躍できるよう、積極的な情報提供や活用促進に努めてまいります。	文化振興課 中央公民館 まちなかキャン パス長岡

No	内容	意見・質問者	回答	回答課
1-②	図書の貸出と返却の冊数に2,000以上の差があるのはなぜか。	委員	遠隔地域に設置している取次所では、電話やWEB予約で本を取り寄せ借りられるほか、市内図書館に来館して借りた本の返却預かりも行っているため、貸出冊数よりも返却冊数が多くなっています。	中央図書館
3-②	活動補助金はどんな内容ですか(金額と題目)。7団体とありますが、団体名も分かればありがたい。(昨年度のものでよいです)	委員	「地域課題解決支援補助金」は、令和5年度に新設しました。従来から交付している活動補助金(いきいきコミュニティ事業補助金)は、生涯学習、青少年健全育成、福祉、まちづくり等さまざまな分野の活動を自主的に行うための補助金ですが、当該補助金は、地域課題の解決や課題の把握・検討を行うために、当該地区でこれまで実施していない事業を支援するものです。 交付額は、1地区団体あたり、1事業年度につき上限100万円(同種の事業は最大3年まで実施可能)。7団体は、長岡地域の川崎、四郎丸、中島、山通、支所地域の中之島、寺泊、みしまです。なお、1団体(川口)から追加で申請があり、実績は8団体となる予定です。 団体名は、「〇〇コミュニティ推進協議会、□□コミュニティ協議会、△△推進会議」など、地区ごとに若干異なります。	市民協働課
3-②	コミセンへの財政的支援に加えて、コミセンの課題解決に向けた相談や協力体制を充実させる窓口があると良いのではないか。(例:ファシリテーションなどの話し合いの支援や解決のための道筋や参考となるアイデアの支援) ※山本地区の取組を参考に、アウトリーチ型の取組として	委員	ながおか市民協働センター(アオーレ長岡西棟3階)が、市民活動、ボランティア活動、コミュニティ活動など様々な自発的活動に関する相談を行っています。必要に応じて、コミュニティセンターが相談し、ファシリテーションや座談会のコーディネイトなどの支援を受けております。	市民協働課

資料2に関する意見・質問

No	内容	意見・質問者	回答	回答課
【全体】	5年度からの継続であるが、1～7の重点施策の中で特に重きを置くものはあるか。また、担当各課の横の情報共有やつながりはあるか。	委員	重点施策の1～7については、各分野ごとに設定している施策目標のため、その中で特に重きを置く施策としては設定していません。 また、担当各課は必要に応じて情報共有等を行っています。例えば、「2-②地域学びコーディネーター講座」では、委嘱予定先であるコミュニティセンター側のニーズも重要ですので、中央公民館と市民協働課とで講座の内容を協議しながら設定しています。	事務局 (中央公民館)
【全体】	令和5年度の各重点施策の達成度と、良かった点や課題、改善案等が整理されているようであれば知りたい。	委員	現状、各課が実施している事業ごとの実績等は確認しているものの、重点施策ごとの達成度等については整理していませんので、資料1の作り方と併せて、次年度以降に検討してまいります。	事務局 (中央公民館)
【全体】	多様性を認める社会の実現や「well-being」の向上の視点が強調されれば良いかと思います。(含まれていると思いますが。)	委員	「多様性を認める社会の実現」については、人権の尊重の推進と併せ、関係課と進めてまいります。 「well-being」の向上の視点は、すべての施策に関わるものだと認識しています。ただし、関係課にもまだ十分に浸透していない考え方だと思われるため、今後周知に努めてまいります。	事務局 (中央公民館)

資料3に関する意見・質問

No	内容	意見・質問者	回答	回答課
	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育関係団体の事業の選定基準は？ ・また、文化振興課予算事業に、中之島、三島、山古志、和島、川口地域の団体名がないのはなぜか？ 	委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料3に掲げる「社会教育関係団体」とは、長岡市社会教育の基本方針の重点施策の推進に必要であり、公益性が極めて高い外部団体と位置付けています。そして、当該団体に対する補助金は、毎年事業計画等の提出を受けて審査し、交付しているものです。また、本補助金は社会教育法第13条に規定される諮問のために一括りにした仮称であり、それぞれ個別の補助金となります。なお、中央公民館に登録のある「長岡市公民館社会教育関係団体」と似た名称ですが、本件の団体とは異なります。 ・支所地域の文化協会は、地域住民が主体となって結成された集まりであり、地域の実態により結成状況が異なります。長岡市では、資料に掲げた地域にのみ文化協会が結成されております。 	事務局 (中央公民館) 文化振興課
	団体を立ち上げる場合の条件は。	委員	前述のとおり、「社会教育関係団体」とは、長岡市社会教育の基本方針の重点施策の推進に必要であり、公益性が極めて高い外部団体であり、補助金を交付するためには市の施策と合致し、市が認める事業を行う必要があります。	事務局 (中央公民館)
	<ul style="list-style-type: none"> ・予算減額の理由は。 ・補助金が減らされて、活動に支障がなければ良いのですが。 	委員	今回は活動内容の見直しを行った地域があり予算額が減少しましたが、毎年、必要な額を各支所地域から聞き取ったうえで予算要求していますので、活動に支障が生じることはないと考えております。	文化振興課

その他ご意見

No	内容	意見・質問者	回答	回答課
	長岡駅周辺の活動施設などの駐車場が時間に関係なく無料になると施設を活用しやすい	委員		